



MAPLES
GROUP

重要な架け橋：ケイマン諸島 はどのようにして日本を世界 のプライベート市場につない でいるのか

2025 年 10 月

本書はあくまでご参考のために英語で公表されたものを日本語に翻訳したものです。本書の正式言語は英語であり、その内容・解釈について差異が生じた場合には、英語版が優先します。

重要な架け橋：ケイマン諸島はどのようにして日本を世界のプライベート市場につないでいるのか

日本では貯蓄から投資への歴史的な転換が進行しており、手つかずのままであった世界最大規模の家計資本が解き放たれたことから、資産運用残高は記録的な勢いで増加しています。ケイマン諸島籍ファンドは、日本の投資家を世界のプライベート市場につなぐ重要な架け橋となっています。

日本の投資市場は未曾有のスピードで変化しています。家計が保有する現金は依然として7兆米ドルを上回り、2023年の運用資産残高が世界最大の伸び幅（+18%）となる中で、メガバンクや生命保険会社から富裕層、裕福な大衆世帯まで、投資家は貯蓄から投資への移行を進めています。今や日本はケイマン諸島籍ファンドへの投資額で世界第2位となり、世界の市場への日本の資本の流入においてケイマン諸島が果たす重要な役割が明確になっています。

こうした資金をプライベート市場の大手運用会社と結ぶために、背後にあるインフラストラクチャーが機能しています。特にケイマン諸島のユニット・トラストをはじめとするケイマン諸島籍ファンドは、日本の投資家を世界のプライベート・エクイティ、クレジット、インフラストラクチャー、不動産への投資機会につなげる重要な架け橋となっています。

ケイマン諸島が選ばれる理由：日本の資本のための信頼できるゲートウェイ

日本とケイマン諸島との関係は30年以上前に遡ります。1990年代に販売会社や信託銀行は、国内投資信託の原則に準拠しながらグローバル・ファンドに対応するビークルを必要としていました。ケイマン諸島のユニット・トラストはその両方の要求を満たしていました。ケイマン諸島はその知名度、一貫した法規制、コモンローによる統治、成熟したサービスのエコシステムを背景に、オフシ

ョア・ファンドの設立地として選ばれてきました。

今日、ケイマン諸島のユニット・トラストは日本で登録されている外国投資信託の約70%を占めています。

このモデルは2つの面でメリットをもたらします。

日本の投資家にとっては、明瞭な法的権利、租税効率、信頼性の高い監督、現地慣行に沿った馴染みのあるオペレーションといったメリットをケイマン諸島のユニット・トラストはもたらします。

グローバル資産運用会社にとっては、柔軟な構造によって多様な投資家セグメントにわたって規模を拡大でき、安定性と成長性のある資本の供給源を確保できます。

全国的な変化：機関投資家から個人投資家まで

最初の動きは機関投資家が起こしました。ゆうちょ銀行を含め、生命保険会社やメガバンクは10年以上前にオルタナティブ資産の構築を始め、ゆうちょ銀行のプライベート・エクイティへのエクスポージャーは急速に拡大しました。地方銀行もこれに追随し、何年も続いた低金利の後、利回りと分散化を追求するようになりました。2025年からの新たな経済価値ベースのソルベンシー規制（ESR）も、保険会社がプライベート・クレジットなどの資本効率の優れた長期の分散化資産を愛好する誘因となっています。

そして今、家計が参入しています。少額投資非課税制度 (NISA) の改定、人口動態、インフレの復活を背景に、専門家が運用するファンドに引きつけられるリテール投資家が増えています。セミリキッド・ファンドは、かつては機関投資家しか利用できなかった戦略への投資を可能にし、個人投資家が資産の分散と増大を図る新たな手段を提供しています。

現代の日本の投資家のニーズへの対応

ケイマン諸島のストラクチャーは市場とともに進化してきました。機関投資家については、プライベート・エクイティ型ユニット・トラストがプライベート市場への投資で日本の年金基金、メガバンク、保険会社が選好するストラクチャーとなっています。ゆうちょ銀行などの日本の機関投資家は、このストラクチャーを通じて10年足らずの間にプライベート・エクイティのポートフォリオをほぼゼロから500億米ドルまで拡大することができ、世界のプライベート・エクイティ投資家の上位10位以内にランクされるようになりました。

富裕層とリテール投資家の場合、ケイマン諸島のユニット・トラストはエバーグリーン・ファンドやセミリキッド・ファンドを通じて世界のプライベート市場への扉を開きました。このようなファンドは定期的に償還の機会があり、最低投資額が少なく、幅広い投資家を利用しやすくなっています。信頼性の高い国内販売会社や知名度のある信託銀行の枠組みも、急速な普及を支えています。現在、Blackstone、KKR、Apollo、EQT、Goldman Sachsなど、世界の大手資産運用会社の多くは、BlackstoneのBREIT、BCRED、BXPE、BXINFRA、KKRのプライベート・マーケット・エクイティ・ファンドなど、日本向けの旗艦ファンドでケイマン諸島のトラスト・ユニットのフィーダー・ファンドを利用しています。こうしたアプローチによって、日本の投資家が世界の主要ファンドに投資する道が切り拓かれています。

ケイマン諸島のユニット・トラストは、単独のファンドとしても、アイルランド、ルクセンブルク、米国のマスター・ファンドのフィーダー・ファンドとしても利用され、日本の投資家の優先要件と世界の諸基準に合わせるができます。日本の投資家がユーロ建て資産への配分を増やす中で、ケイマン諸島のユニット・トラストはスムーズな国際投資と世界の諸基準への準拠を可能にします。今では、投資家の関心は「オフショア・フ

Анд」だけに限られません。グローバルなポートフォリオへのスムーズなアクセスが求められ、そのため、柔軟性と互換性を有するケイマン諸島が投資家に選ばれるようになっています。

今後の見通し：世代交代への架け橋

日本は家計の投資所得を2027年までに倍増させることを目指しており、そのため、プライベート市場への投資は増加傾向が続くと考えられ、対外資金フローは2～3年以内に年間1,000億米ドルを突破する可能性があります。提案されている「プラチナNISA」では定期的分配を行うファンドをNISAに含めることが認められ、家計資産の約60%を保有する65歳以上の投資家の関心を喚起する可能性があります。

ケイマン諸島のユニット・トラストはこの流れに沿って進化し、日本の投資家が期待する知名度と世界のスポンサーが求める柔軟性を提供します。ケイマン諸島の実証済みのプラットフォームは、アクセスの拡大、分散、投資機会の拡大を投資家と資産運用会社の両方にもたらします。

ケイマン諸島は30年以上にわたり、世界市場への投資のための安定的で透明性と適応力のあるゲートウェイを日本に提供してきました。日本の貯蓄から投資への移行が加速する中で、この架け橋を使って流れる世界の資金フローの割合はかつてないほど増大すると思われます。日本の投資家と海外のスポンサーが次の成長の時代のためのこの架け橋を利用すべき時が、今来ています。

Maples グループのジャパニーズ・ファンド部門について

Maples グループのジャパニーズ・ファンド部門では、業界の大手企業や市場の新規参入者に対し、日本の投資家を対象としたケイマン諸島、ルクセンブルク、アイルランド、ジャージーの各ファンドの構造化・設立について助言とファンドおよび信託サービスを提供しています。

著者

Nick Harrold
Maples Group
+65 8482 7721
nick.harrold@maples.com